

# 地域の防災・火災だより

## 青葉

AOBA

## コロナ禍における防災訓練について

株式会社仙台三越 総務・経営企画部 齋藤 紀昭

弊社「仙台三越」が昭和8年に現在の一番町四丁目に店舗を構えて、2023年度にはいよいよ90周年を迎えます。これからも地域に根差したお店としてお客様に安全安心を提供しながら、ご支持を頂けるお店をつくっていただけるよう取り組んで参ります。

さて防火防災に関する取組も、2020年2月以降は新型コロナウイルス感染防止対策の下で、特に従業員の訓練に際しては様々な工夫をしながら行ってまいりました。

一つには訓練スタイルの工夫です。人が集まり密になることを避けるため、これまでのような全館一斉訓練ではなく、20人程度が屋上の風通しの良い場所に広がりながら講習形式で行いました。これの良かった点は、例えば消火器や消火栓操法などの、訓練の中の一部分を取り上げた細やかな練習を少人数ごとに時間をかけて実施できたことです。ともすれば、全体訓練は流れにばかり目が行きがちになり、一人一人が行う各ミッションの細かい内容や、消防器具の操作といったところに行き届かなくなりがちです。これを少々時間をかけて、本当の基礎反復ができた事は有意義でした。また、対象も4月や10月など新規来店メンバーが増える時期に合わせて実施でき、非常に効果的だったと感じています。

また実施方法に関しても、デジタル化が進む昨今、パワーポイントを使用し、地震被害についての臨場感のある動画を使用したり、避難階

段の開錠方法について動画で具体的に学んだり、とわかりやすさが自衛消防隊の皆さんにも好評です。

これらは資料を紙で配らないペーパーレスにチャレンジすることにもなり、SDGsの取組としても有効でした。こうした訓練を繰り返し行いながら昨今はコロナの状況に応じて少しずつ以前のような全体訓練が実施できるようになってきました。

そのような中で、先日の青葉消防署様との合同訓練は、非常に貴重な体験となりました。

合同開催は9年ぶりということもあって、当時とは要員構成が大きく変化しており、フルタイム勤務者よりもパートタイム、そしてお取組先様からのパートナースタッフの比率が高くなっています。自衛消防隊もそうした要員の変化に対応して、事業所内の全スタッフを有効に組み込んで編成されています。実際に今回の訓練に関する141ビル内での反省会では、在席人員が少ない中で地震や火災が発生した時のことを想定した訓練計画を組み立てるべき、という意見が寄せられています。

環境の変化を実際の訓練に反映させることの大切さ、取組先様も含め一人一人の意識を高めることが大事であることを実感した合同訓練がありました。

青葉消防署の皆様、本当にありがとうございました。感謝とともに今後も工夫して精度を高めて参りたいと思います。

